

沖縄県内の路線バス利用者数は減少し、都市部では交通渋滞が慢性化しています。通学交通に関しても、自家用車送迎による学校周辺の渋滞や学校近隣住民への迷惑、事故防止等、解決すべき問題は少なくありません。

そこで、学生を対象とした「学校MM（モビリティマネジメント）」と自家用車から路線バスへの転換実証実験を実施することにより、学生に特化した公共交通利用の活性化と移動手段の分散等による渋滞緩和を目指します。

○学校MM（モビリティマネジメント）の実施

■ 路線バス利用意識啓発ツールを学生へ配布（平成29年12月～平成30年1月実施予定）

那覇市内の高等学校数校に対し、バス利用意識啓発ツールの配布と既存サービス「バスなび沖縄」等の利用方法を案内します。

■ 県内高等学校向け「通学バス運行情報サイト」を構築（平成30年1月9日より段階的に公開予定）

本島内の各高校周辺の路線情報を整理した「通学バス運行情報サイト（仮称）」を立ち上げ、個々の学校の通学ニーズに応じた情報提供を行います。

■ 学生向けバス利用促進イベントを開催（平成30年3月実施予定）

学生を対象に、近年企業研修手法として注目されている「チームビルディング」を活かし、公共交通利用体験イベントを実施します。学生向けチームビルディングのテーマとして「学生向け路線バス利用促進プロモーション映像製作」を設定し、映像製作を通して実際に公共交通を学生に乗車体験してもらい、公共交通の現状や地域の取組みについて理解して頂くことで、公共交通のイメージアップと利用促進を図ります。



▲ 学生向け意識啓発用パンフレット



▲ 「通学バス運行情報サイト」スマホ画面での表示イメージ

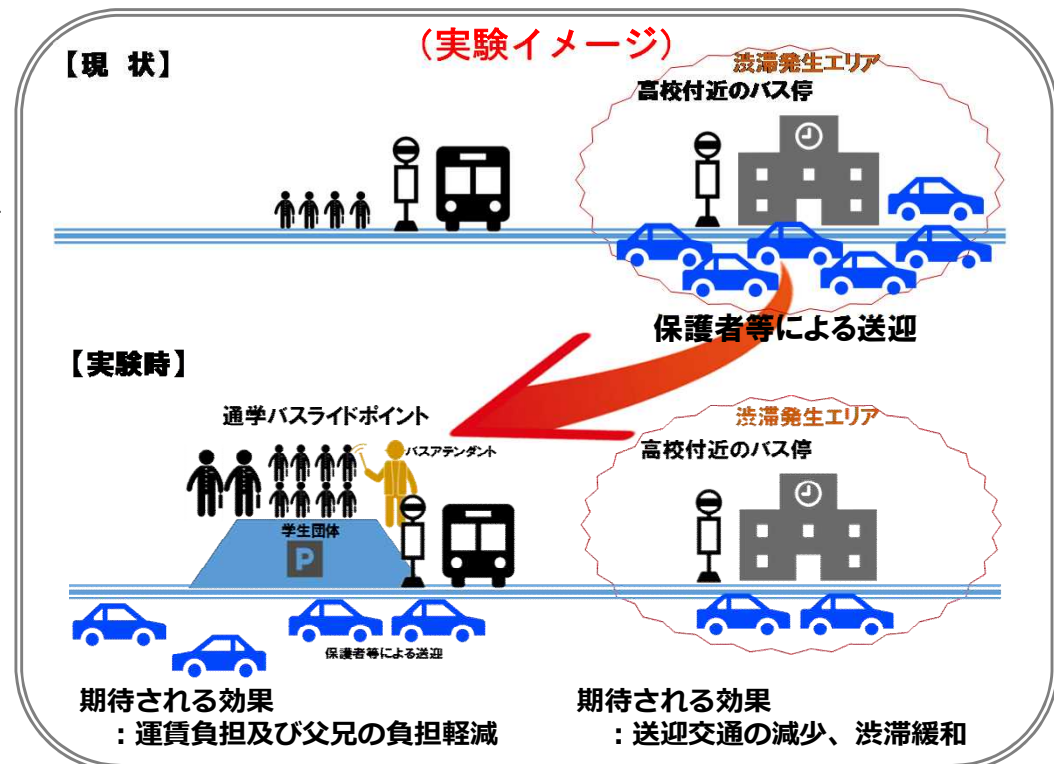
○路線バスを活用したスクールバス実証実験

■既存路線バス停を利用した通学バスライドポイント実証実験（平成30年1月9日～3月23日実施予定）

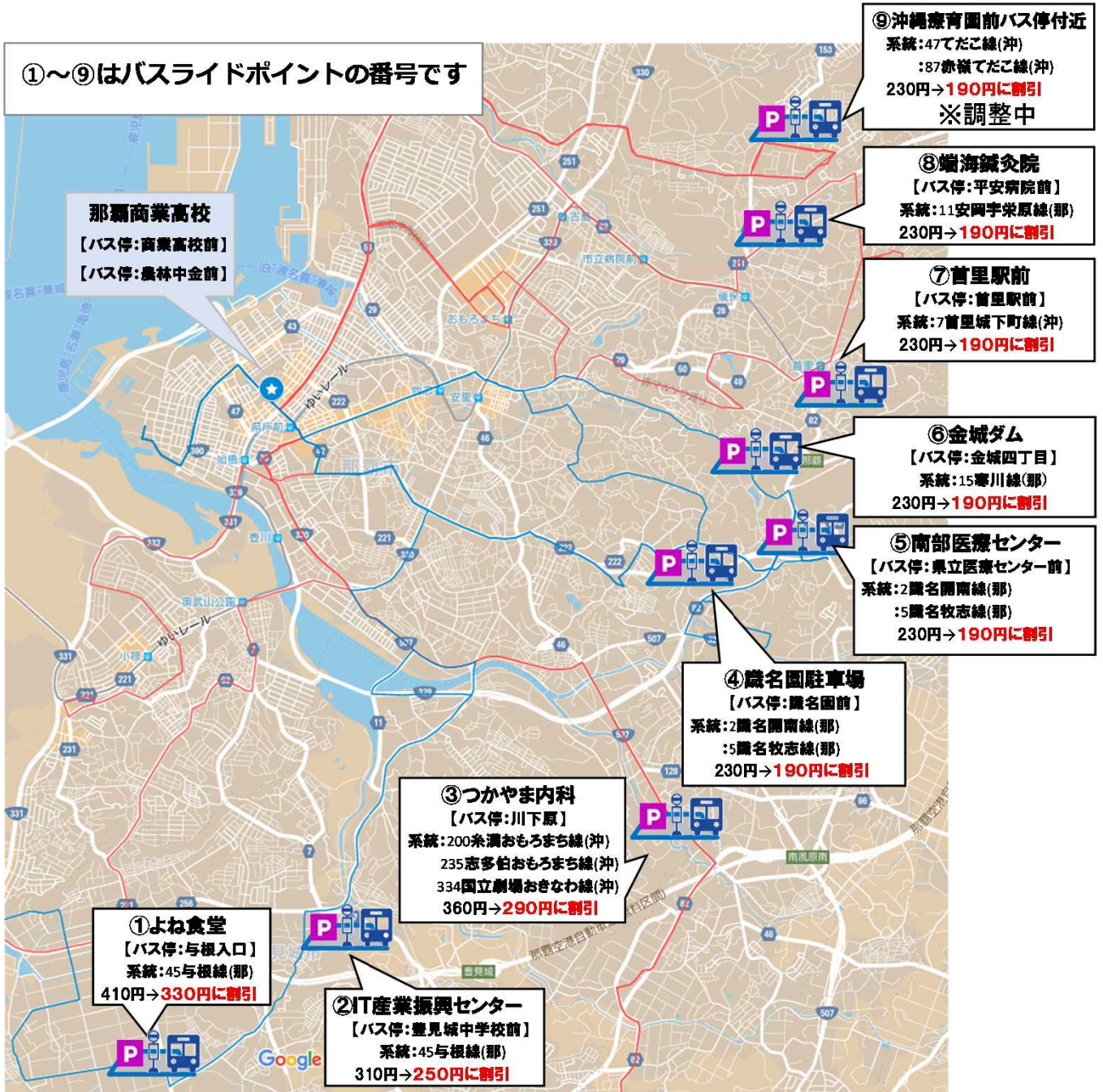
- ・那覇市中心部に位置する「那覇商業高等学校」をモデル校とし、主な通学手段として自家用車送迎で登下校をしている学生を対象とした路線バスへの転換実証実験を実施します。
- ・当学校への通学に適している路線バスを抽出し、渋滞エリアを避けた郊外に「通学バスライドポイント」を設け、自家用車送迎を学校までではなく、通学バスライドポイントへの変更を促します。
- ・通学バスライドポイントを利用してバス通学する学生の人数を事前に把握することで団体利用（同一区間を複数人で乗っている）として扱い、団体割引運賃（通常運賃から2割引）を適用します。
- ・事前に団体利用申込をした学生には、学校名や区間、割引運賃等を記載した「学生団体乗車証明書」を発行し運転手へ証明書を提示して頂きます。
- ・通学バスライドポイントにはバスアテンダントを配置し、学生へのバス利用方法のレクチャーや安全確保、学校との連絡調整等を行います。



▲通学バスライドポイントの一例「県立医療センター前」



■通学バスライドポイントと併設するバス停一覧



高校付近のバス停と対象路線

(農林中金前のバス停へ到着する路線)

- ・ 7 首里城下町線(沖)
- ・ 11 安岡宇栄原線(那)
- ・ 47 てだこ線(沖)
- ・ 87 赤嶺てだこ線(沖)
- ・ 200 糸満おもろまち線(沖)
- ・ 235 志多伯おもろまち線(沖)
- ・ 334 国立劇場おきなわ線(沖)

(商業高校前)

- ・ 2 識名開南線(那)
- ・ 5 識名牧志線(那)
- ・ 15 寒川線(那)
- ・ 45 与根線(那)

凡例

★ : 那覇商業高校



通学バスライドポイント



商業高校前まで行く路線



農林中金前まで行く路線